

2022/7/15

(うと Q 世話し 我が国の英語教育のナニコレ珍百景 2) 書庫版



原文の英語をそのまま書くといわれた側の外国人さんと指摘した側の日本人さんの特定が可能になってしまいますので敢えてぼかして書かせて戴きます。

ある欧米系外国人さんが英文を書いたところ、ある日本人さんから

「その文には不定冠詞 a が抜けているような気がします」

という指摘がありました。

その欧米系外国人さんは立派な日本語文章で

「おっしゃる通りです。不定冠詞 a を抜けておりました。ご指摘、大変ありがとうございます」

と書いておられました。

しかし推測するにこの欧米系外国人さんは返信した後、額に手を当て、頭を左右に小刻みに振っていた様な気がします。そして

“Oops” (was almost likely to vomit) オエツと殆ど吐きそうになった。

是は反対の立場を想像すればすぐ想像がつく反応です。

仮に指摘をした日本人さんが夢中になって話し終わった (或いは書き終わった) 後で横から

「あそこは「られる」ではなくて「れる」というのが正解だったではありませんでしょうか」

と日本語が母国語ではない外国人さんから指摘を受けたらどう感じますでしょうか？

確かに指摘自体はそれぞれ非の打ち処なく正しいのですが、人間は夢中になって喋っていたり書いていたりした場合そこ迄フォローしきれないのが実態でしょう。

それを指摘されたら母国語話者ではない外国人話者から指摘を受けたというプライドの問題もありましょうが、それ以上に

「そんな処迄カバーできるかよ」

という諦めを含んだ困惑感と苛立ち感が勝るのが自然でしょう。

そしてそれぞれ

「こんな奴と友達には絶対なりたくないな」 (never want to make a friendship with him anymore)

と。

元々言語というのは何度も申上げております通り生活や交流の為の道具です。

もっと具体的に言えば「相手の言いたい大意が掴めれば細部はオマケに過ぎない」のではないのでしょうか。

なので、上記のお話の例では本来の目的であるコミュニケーションの醸成を却ってものの見事に破壊する事に堕してしまっている様に思えてなりません。

これ迄ネット上で English speakers に対して英語の文法上の誤りを指摘している外国人さんを目にした事は一度もありません。指摘した人物は 100%日本人男性でした。

自分が前後の状況を踏まえて観察した処に依れば是は明らかに「自己優位広告」以外の何物でもない様に見受けられました。

その発言で「多くの方が正解を獲得する」というのではなく「ドヤっ、俺は English speaker に指摘する位デキル奴」というアピール広告。

嘗て自分にもそう言う処があったのでその欲望自体は実感を伴って十分に分りはするのですが、しかしもうこういう小細工は止めた方がいいと思います。

こんな事ばかりしていたら増々英語学習や留学やビジネスで海外に出る事を嫌になってしまふ我が国国民諸氏が増えてしまうだけですから。

それは我が国国民にとっても、又来日の心づもりをしている外国人さん方にとってもお互い不幸な事でしかありませんでしょうし。